

統合型医療リゾート施設の提案

—浜名湖における訪日医療観光客を対象とした新たな国際観光資源の創造—

Proposal of integrated medical resort facilities

Creation of a new international tourism resources intended for the visit medical tourists in Lake Hamana

○川崎将¹, 佐藤信治²

*Masashi Kawasaki¹, Shinji Sato²

Now, foreigners who visit our country has been rapidly increasing. By rapid information and globalization, has become complex information of medical care can be readily available. As a result, tourists are called to travel to Japan to try to visit the surgery or examination by advanced medical of Japan "medical tourists" There is also increasing. On the other hand, it's in Japan to present "treatment" are mostly medical facilities for the purpose of, hospital capable of performing up to then of aftercare is small. In order to target foreign tourists in this proposal, to remove the framework of Japan's medical facilities, it can be done from the "treatment" to "medical treatment", "recreation", was developed the facilities and space for foreigners, and intended to be re-constructed as a new resort.

1. はじめに

今わが国を訪れる外国人が急増している。中でも近年の急速な情報化とグローバル化によって、医療等の複雑な情報も手軽に入手できるようになり、日本の高度先進医療による治療や検査を受けようと、はるばる海を渡る「医療観光客」と呼ばれる外国人も少なくない。一方でその受け皿となる医療施設は「治療」のみを目的とした施設がほとんどであるつまり、身体的な回復を目指す「治療」と精神的な回復や普段の生活習慣を見直すことが出来るようなアフターケアまでを行う「療養」が出来る医療施設がほとんどないのが現状である。本提案では今後も増加の見込まれる医療観光を行う訪日外国人をターゲットに、今まで別々に捉えられてきた「治療」と「療養」の枠を取り払い、外国人向けのアメニティーや空間性を用いて新たにリゾート施設として再構築するものである。

2. 計画背景

2. 1. 医療観光と市場規模の推移

近年、観光業の中で注目を集めるのが「医療観光」(medical tourism)である。医療観光は世界的な傾向の中で、2012年にはその市場規模

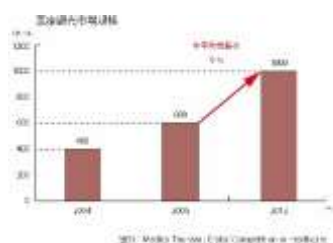


Figure 1. Medical tourism market.

が 1000 億ドルに達する (Fig.1) など今後も成長が大きく見込まれる新たな産業といえる。このような医療の国際化を取り込むことは国際交流の促進や国際貢献、さらには訪れる外国人がもたらす経済効果によって地域活性化を行うことができると期待を集めている。

2. 2. 日本の医療観光受け入れ体制

このような世界的な医療の国際化をうけ、国交省では平成 25 年の閣議決定の中で 2030 年までに、年間約 3000 万人の誘致を目標とすることを掲げた。また 2010 年には新成長戦略元気な日本復活のシナリオで「サービスを観光とともに促進すること」を決定したほか、医療ビザの発行や医療・介護・健康関連産業を健康牽引産業にするという「健康大国」も目指している。

2. 3. 医療施設の障壁

しかし近年の健康増進や予防医療ブームのように人間が本来持っている自然治癒能力等を引き出させるような追治療まで行う施設は「療養所」「保養所」等が担っており、本来は一元的に行われるべき心身医療が別々に行われてしまっている。すなわち「治療」のみを目的とした医療施設がその大部分を占めてしまっている。加えて閉鎖的な病床や待合空間、若手医師の育成等の課題によって、入院環境が必ずしも整っているとは言いがたいのが現状である。

2. 4. 日本の医療観光の優位性

一方で日本をはじめとするアジア圏は医療観光のメッカであり、激戦区である。医療観光の先進性については (1) 医療施設・設備の充実度 (2) 医療プロセスの

1 : 日本理工・院・海建、Graduate school, Dept. of Oceanic Architecture & Eng. College of Science and Technology, Nihon-Univ.

2 : 日大理工・専任講師・海建、Assistant Prof, Dept. of Oceanic Architecture & Eng. College of Science and Technology, Nihon-Univ. Dr.

整備度合い(3) 受け入れ可能な治療サービスの幅(4) 治療成果(アウトカム) などがあるが、日本においてはその(5) 豊富な医療資源・細やかなサービスとされている。しかし同時にこのような高度医療を用いた場合の「検査の長期化」や「長い待ち時間」等への対応が大きな課題となっている。

3. 基本計画

3. 1. 計画方針

以上までのような背景より、「治療」「療養」「保養」の3つの医療の柱を取り払い、増加の見込まれる医療観光客をターゲットとした観光業として医療を再構築することで(1)治療・療養・保養の一体的なケアシステムの構築(2) 高度先進医療を使用できる検診医の育成(3)海外需要に対する供給(4)院内での国際交流・地域交流の促進(宗教的空間性にも配慮)(5) 地域経済の活性化を行うことを目的とする。

3. 2. 計画地特性

(1) 東京・大阪間の観光のゴールデンルート(2) 良好な居住環境と自然環境を有する場所(3) 訪日外国人受け入れに積極的な地域(4) 国際線を持つ空港を近郊に持つ場所(5) 水辺空間を療養・保養に使用できる場所、以上5項目とする。

3. 2. 2 静岡県湖西市宇津山地区



Figure 2. Kosai, Shizuoka Prefecture Utsu Mountain

敷地特性より静岡県湖西市宇津山地区(Fig.2)の一角を選定した。宇津山地区は浜名湖に面し、丁度東京・大阪間の中間に位置しており、どちらへのアクセスも2時間程度となっている。または閉鎖水域ながら水の循環作用が比較的高くCOD値、DO値共に敷地周辺は国の環境基準値をクリアしている。一方で、湖西市観光課によると湖西市を訪れる観光客数は平成17年度をピークに年々減少傾向にある。

3. 3. 観光資源としての「療養」

「療養」には様々な形態が存在するが、海洋療法(タラソテラピー)は海水浴や海泥や海藻を使ったエステ等、地域資源を直接使用した観光資源になり得る。同時にその医学的効果は医師ルネ・カントンが1904年の第13回パリ国際医学会の論文で、動物は体内に海水を保有するというを生物学的に論じており、その科学的根拠が示されている。また科学的根拠はまだ確立していないものの、芸術療法(アートセラピー)等は医師や有資格者によって心身回復に効果が認められている。本提案では浜松市の地域資源を療法として捉えなおすことで日本独自の文化や習慣を「医療観光資源」として訪日外国人に発信する。

4. 建築計画

4. 1. 導入機能

①医療検診部門②療養部門③保養リゾートエリア部門④国際・地域交流部門(観光案内所など)

4. 2. ゾーニング

敷地高低差約40mを利用し、機能を段々畑状に配置する。レベルによって公私の空間を明確にすることで、プライバシーを確保しながら全室から浜名湖を望むことができる開放感のある空間性を確保する。同時に「医療」「療養」「保養」空間を縦軸方向に繋ぎ傾斜エレベーターによって各階を繋ぐ。また冬季においても浜名湖との関係性の構築やマリンスポーツの利用を計画するために、施設全体に大きな膜屋根(Fig.3)をかけ半屋外化する。

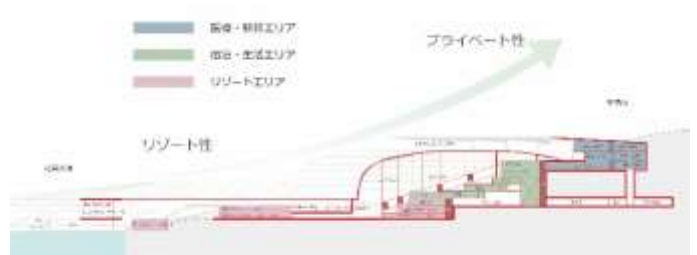


Figure 3. Section Image.

5. 参考文献

- [1] 建築設計資料: 72 病院 2・21 世紀の病院像
- [2] リゾートの思想 著・一条真也
- [3] メディカルツーリズム 著・ジョセフ・ウッドマン
- [4] 訪日観光の教科書 著・高井典子、赤堀浩一郎
- [5] ウェルネスツーリズム 著・光武幸